

Race Report

Super GT 2016 Series

Round-5/ FUJI GT300KM RACE

今シーズン初表彰台を獲得

Audi Team Hitotsuyamaは、2016年8月6日、7日、静岡県富士スピードウェイで開催されたSUPER GT第5戦「FUJI GT300KM RACE」に出場し、2位でフィニッシュ、今シーズン初表彰台を獲得しました。

前戦のスポーツランドSUGOでは、表彰台獲得を目前にしなから、マシントラブルにより無念のリタイアを喫しただけに、その悔しさを胸に、ここ富士の300kmレースに臨みました。



8月6日 予選

真夏の日差しが降り注ぐ富士スピードウェイは、予選直前には気温33度、路面温度48度以上という過酷な天候に見舞われました。

これに対し、DUNLOPが高めの路面温度に適したタイヤを用意。一方、チームも、ストレートの長い富士に合わせてマシンのダウンフォースを低めに設定し、万全のコンディションでノックアウト方式の予選に挑みました。

「表彰台を狙うためには6位以内には入りたい」と語るチーム代表の一ツ山亮次は、午前中の練習走行に好タイムをマークしたAudi R8 LMSに、仕上がりの良さを感じていたといいます。そして臨んだQ1は、藤井が1分37秒742で2番手タイムを叩き出します。「タイヤの開発が進んだおかげで、Audi R8 LMSの性能を引き出せる本来のセッティングができるようになってきました」(一ツ山)。

さらに、Q2を担当したライアンが1'37秒889をマーク。トップにはコンマ344秒及ばなかったものの、2位のポジションを獲得。堂々のフロントロウからのスタートを手にしました。

予選結果

P1 #55 ARTA BMW M6 GT3 高木真一／小林崇志

P2 #21 Hitotsuyama Audi R8 LMS リチャード・ライアン／藤井誠暢

P3 #51 JMS LMcorsa 488 GT3 都筑晶裕／新田守男

8月7日 決勝

前日にも増して容赦のない強い日差しが照らす富士スピードウェイにおいて、14時42分、ローリング方式によりレースがスタートしました。スタートドライバーを務める藤井は見事なスタートを決め、2位のポジションを守ったまま1コーナーに進入。ここから、長いトップ争いが始まります。

ポールポジションからスタートしたARTA BMW M6とAudi R8 LMSは、序盤から危ない走りでもレースをリード。2位の藤井は先行するBMW M6と付かず離れずの距離を保ち、レースを進めていきます。「ペースを上げればM6をパスすることもできましたが、タイヤに厳しいコンディションを考えて、前半には無理をしませんでした」(一ツ山)。

29周を終えたところでライアンにドライバー交代。給油時間の関係等からピット後ARTA BMW M6との差は6秒ほどに広がりましたが、その後もライアンはトップとほぼ同じペースで周回を続けていきます。レース終盤、M6のタイヤが厳しくなっていることは明らかで、タイヤを温存してその時を待ち構えていたライアンがラストスパートを開始。1' 39秒台の自己ベストを更新する勢いで当初6秒前後あった差をわずか数周で1秒台に縮め、ファイナルラップではまさにテール・トゥ・ノーズのバトルを繰り広げることに。最終コーナーを立ち上がりM6の背後にぴたりと付けたライアン。コントロールラインの手前でM6の横に並んだものの、わずかコンマ106秒差で及ばず、2位でのゴールになりました。

これにより今シーズン初の表彰台を獲得するとともに、Audiで参戦史上、過去最上位を記録することになりました。

次戦の第6戦は伝統の「鈴鹿1000km」。長丁場のレースを得意とするAudi R8 LMSとAudi Team Hitotsuyamaが、初優勝を目指して頑張りますので、引き続き皆様のご支援、ご声援をお願いいたします。

決勝結果

P1 #55 ARTA BMW M6 GT3 高木真一／小林崇志

P2 #21 Hitotsuyama Audi R8 LMS リチャード・ライアン／藤井誠暢

P3 #61 SUBARU BRZ R&D SPORT 井口卓人／山内英輝

チーム代表 一ツ山亮次のコメント

前回の菅生ではドライブシャフトの破損で表彰台を逃し、悔しい思いをしたので、この富士ではとにかくミスやトラブルを起こさないようにと、チーム内でミーティングを繰り返し徹底しました。その甲斐あって、ドライバー、メカニック、エンジニアの皆がミスのない完璧な仕事をしてくれました。それが2位という結果につながったのだと思います。次の鈴鹿1000kmは必ず荒れますので、Audiにとってはとてもチャンスのあるレース。富士でこれだけスピードがあることがわかりましたので、鈴鹿では丁寧に落ち着いてレースをすれば表彰台の真ん中はおのずと見えてくるはず。必勝態勢で臨みたいと思います。



Official Facebook page of Audi Team Hitotsuyama.
<https://www.facebook.com/hitotsuyamaracing>